診療局：麻酔科

ースタッフ紹介ー

役　職	スタッフ名
主任部長兼手術部長	小林　俊司
部　長	足立　匡司 (8月退職・9月から非常勤医師)
医　長	米本　紀子
医　長	神移　佳
医　長	伊原　正幸 (6月退職・7月から非常勤医師)
医　長	森本　正昭 (12月退職・1月から非常勤医師)
副医長	鶴野　広大 (6月退職・7月から非常勤医師)
非常勤医員	高橋　未奈（12月退職）
非常勤医員	越智　貴広

ー概要ー

当院麻酔科は、かつては大学医局からの医師派遣を受けていた。しかし、医師不足のあおりを受け、2008年度初めに常勤麻酔科医がゼロとなり、以後公募に切り替え現在に至っている。2008年9月、小林医師が公募による初の常勤麻酔科医として赴任し、以後少しずつ常勤医が増加した。ここ数年は常勤医10名前後、専攻医数名という充実した陣容となっていたが、2020年度にある理由で離職者が続き、2021年4月1日時点で常勤医7名、専攻医2名となっていた。豊富な人員で行っていた手術麻酔を、少人数で行うことになったため、ワーキンググループが創設され対策が練られたが調整はうまくいかず、離職する者は続き、結局2021年12月末時点で常勤医3名、専攻医1名にまで減少してしまった。そこで2021年度は非常勤医を毎日数名雇い、常勤医の抜けた穴を補填し、可能な限り手術数を堅持するよう努めた。また新型コロナウイルス感染症の第4～6波が断続的に襲来し、病棟の再編をせざるを得ない時期もあり、麻酔科医数の不足と両方の理由から、手術枠が一時期減らされることになった。しかし手術麻酔数は、秋頃から復活し、その後ほぼ元の水準まで回復した。また2022年度からの新スタッフ採用も順調に進み、2022年4月1日には常勤医6名、専攻医2名にまで回復する予定である。

2021年度の年間総麻酔管理件数（アンギオ室含む）は2,613件。その中で全身麻酔は2,316件であった。当麻酔科は原則として、依頼のあった手術麻酔は予定、緊急の全てを受け入れている。また手術室外でも、血管造影室で行う、脳神経外科の脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や、口腔外科の動注管設置術などの麻酔を行っている。

麻酔科では「麻酔科術前スクリーニング」というシステムを用い、手術予定日より1週間以上早くに重症症例等のチェックを行っている。当手術室で行われる手術は、重症度、難度の高いものが多く、手術前日の術前診察では間に合わない場合がある。糖尿病患者の血糖コントロールや、心機能低下患者の詳細な評価など、専門科にコンサルトし、一定の時間がかかる場合である。手術予定日の1週間以上前に、電子カルテに症例を登録してもらい、それを麻酔科医が事前にチェックすることにしている。

研修医、若手医師の教育に重点を置くことや、救急救命士の挿管実習に貢献することは、2008年度からの目標であったが、2021年度には、当院2年目研修医2名、1年目研修医7名、救急救命士の挿管実習者5名、挿管実習再教育者6名、ビデオ喉頭鏡実習者4名を受け入れることができた。

麻酔科では毎週、論文抄読会、および問題症例検討会を開催し、最新の医学情報に接するとともに、各自が勉強を怠らないよう努めている。また後期研修医を中心として、常に臨床研究を行うよう指導するとともに、麻酔の主要学会では、必ず演題を出せるようにしている。2015年度より、日本麻酔科学会の新しい専門医制度がスタートしたが、当院は基幹施設としてプログラムを挙げている。近年、専門医機構の専門医制度としても認定された。当科は引き続き基幹病院としてプログラムを持てるよう、努めていく所存である。

また、麻酔科医は次のような、院内の様々な診療部門、ケアチームに参加している。

＝ペインクリニック＝

ペインクリニックでは麻酔の疼痛管理を応用し、様々な難治性疼痛、慢性痛を治療している。対象疾患が、脳卒中後痛、遷延する術後痛、複合性局所疼痛症候群(CRPS)、三叉神経痛、四肢血行障害性疼痛（レイノー症候群、ASOなど）がん性痛なども含まれる。外来診療は日本ペインクリニック学会専門医2名を中心に行い、各種末梢神経に対しエコーガイドまたは透視下の神経ブロック、入院による持続脊髄鎮痛法、脊髄刺激電極植え込みなどをしている。非がん性慢性痛患者の治療には、近隣リハビリテーション医院や精神科・心療内科とも提携し、難治痛患者のQOLの改善を目指す。2016年4月より、当院は日本ペインクリニック学会の「指定研修施設」に認定されることになった。複数名のペインクリニック専門医を配置し、より高いレベルでの疼痛治療を目指している。

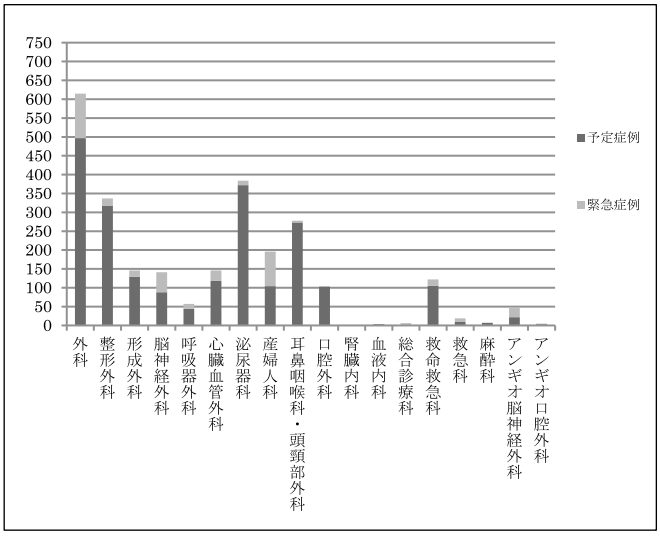
がん性痛に関しては、院内緩和ケアチームに参加し、ま

た地域医療連携室を通じ院内外から侵襲的鎮痛治療の必要な紹介患者を受け入れている。腹部内臓痛のがん患者にはCTガイドの腹腔神経叢ブロックその他内臓神経ブロック、また他神経破壊処置も行う。
（米本紀子医長、神移佳医長）

―実績―

	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
予定症例	497	317	129	88	44	118	372	104	273
緊急症例	118	20	17	53	13	28	12	92	5
計	615	337	146	141	57	146	384	196	278

口腔外科	腎臓内科	血液内科	総合診療科	救命救急科	救急科	麻酔科	アンギオ脳神経外科	アンギオ口腔外科	合計
103	1	3	2	105	9	7	22	3	2,197
1	0	0	4	17	10	0	24	2	416
104	1	3	6	122	19	7	46	5	2,613



―今年度の成果と反省点―

2021年度は、少ない常勤麻酔科医と非常勤医で手術麻酔数を堅持することに苦心した。非常勤医には離職した元スタッフの一部も参加してくれたが、当院で初めて勤務する者も多く、麻酔の質を保つことには特に注意した。その結果、当院麻酔科に必要とされる水準の麻酔の質を保つことはできた。

―来年度への抱負―

2022年度から、新しい麻酔科スタッフが中心となり、当院の手術麻酔を行っていく。非常勤医も数名残っているが、これらスタッフの力により、元の水準を上回る手術麻酔数、およびクオリティを達成したい。

2022年度も、社会・病院からもっとも要望されている手術数の増加に、できる限り応えていく予定である。一方で麻酔科医が疲弊しないよう、ワークライフバランスに注意しながら、運営していきたい。私たち麻酔科医が非常に働きやすい環境、雰囲気が実現しており、さまざまな医療スタッフや事務の方々、市の関係者の皆さんには、心から感謝したい。

2022年度以降は、基本である手術麻酔の質と量を高い水準で維持するとともに、病院の運営方針に従い、必要があれば更に広範囲の分野で、麻酔科の職責を果たしていく所存である。